

2018年度 事業運営報告

1. 事業報告

1. シンフォニー定期演奏会（第224回～第233回）

ザ・シンフォニーホールを会場として10公演を開催した。指揮者には2014年4月より首席指揮者に就任した飯森範親を中心に国内外から客演指揮者を起用。ソリストには国内外で活躍する実力派演奏家を迎え「芸術性の追求」と「集客」のバランスを考慮し公演を企画した。

いずみ定期演奏会（No. 39～No. 40）

2018年度はいずみホールの改修工事に伴い、例年4公演のところを下期の2公演のみの開催となった。ハイドンの交響曲を全曲演奏・録音する「ハイドンマラソン」も4シーズン目となり、当楽団のコンサートマスター、首席演奏者をソリストに起用し、独奏やアンサンブルの演奏を盛り込みながら新たな展開を図った。

2. センチュリー豊中名曲シリーズ（Vol. 6～Vol. 9）

豊中市立文化芸術センターの指定管理事業に携わりながら4公演を開催し、また、ホールとの共催事業として「センチュリー・ポップスコンサート」を行うなど豊中市の文化芸術の発展や地域活性化に貢献した。

3. ザ・シンフォニーホールとの共催シリーズ

ザ・シンフォニーホールとの共同プロジェクトを立ち上げ、4回の公演を開催した。4回のうち2回は完売となり、それ以外の公演についても黒字公演となった。

「2つの第5番」 2018年4月7日

「DIVA 中丸三千繪と出会う夏」 2018年8月4日

「ドラゴンクエストスペシャルコンサート」 2018年11月23日

「2つの第3番」 2019年3月21日

4. 大阪以外での共催公演

広域での観客層の拡大、楽団の認知度、スポンサーの獲得を目的とし、各地の文化財団との共催で、三重（三重県文化会館）、大津（びわ湖ホール）の2会場で公演を開催した。

5. 社会貢献活動

小学生向けの体験型コンサート「タッチ・ジ・オーケストラ」（16公演）、大阪府下の特別支援学校の児童・生徒を対象にした「特別支援学校コンサート」（1公演）、入院患者や来院者のための「病院コンサート」、支援学校へ訪問演奏する「支援学校コンサート（巡回）」（10公演）を開催した。

また、地域社会との共同やオーケストラの新しい可能性を開拓するため「若者の

就労支援」「家族」「高齢者」「地域住民」との活動を4つの柱として、プログラムディレクターの野村誠氏（作曲家）とともに楽団員が一般市民とのワークショップやパフォーマンスを実施。これまでオーケストラやクラシック音楽と出会う機会の無い、あるいは少ない人々ともNPO、行政、大学等と連携しながら積極的に創作活動に取り組んだ。

6. センチュリー・ユースオーケストラの指導

公益財団法人関西テレビ青少年育成事業団と連携し、中学1年生から29歳までの青少年を募り、ユースオーケストラを組織して指導・育成を行った。星空ファミリーコンサート、第11回定期演奏会において日頃の活動の成果を披露した。

7. アンサンブル

7月に「センチュリー室内楽シリーズVOL.4」を豊中文芸センターとの共催公演として開催。JR大阪駅での「センチュリーエキコン」、関西アーバン銀行心斎橋本店での「アーバンイブニングコンサート」、御堂筋での大阪クラシックをはじめ、アンサンブルでの公演に多数出演した。

8. 依頼公演

豊中まちなかクラシック、守山ルシオールアートキッズフェスティバル、日生劇場主催のオペラ公演、吉本新喜劇とのコラボ「オーケストラ新喜劇」、文化庁「文化芸術による子どもの育成事業」の他、過去最多数の依頼公演に出演した。

9. 豊中市立文化芸術センター指定管理事業

2016年4月より豊中市立文化芸術センターの指定管理事業に携わり、3事業年度連続で最終収益は黒字決算となった。

10. 豊中市との連携

2012年に豊中市と提携した「音楽あふれるまちの推進に関する協定」に基づき、「豊中まちなかクラシック」として豊中市内各地でコンサートを実施した（アンサンブル10公演）。また、2018年度より豊中市内の中学1年生を対象とした音楽鑑賞会が開始された。（豊中市主催）

11. CDの制作

楽団のPR、演奏技術の向上を目的とし（株）オクタヴィア・レコードと協力しCD制作に参加した。

○ハイドン：交響曲全集VOL.4（2018年6月27日発売）

○ハイドン：交響曲全集VOL.5（2018年11月21日発売）

○ハイドン：交響曲全集VOL.6（2019年2月20日発売）

飯森範親/日本センチュリー交響楽団 いずみホールにてライヴ収録

12. オーケストラハウスの管理

大阪府から貸与を受けているセンチュリー・オーケストラハウスの一部を音楽サロンとし、音楽に関連する情報誌や交響楽団の歴史等の書籍を設置し、市民が利用できる公共スペースの場として提供した。

■カテゴリー別事業損益（単位：千円）

	2016年度			2017年度(決算)			2018年度(当初予算)		
	収入	支出	損益	収入	支出	損益	収入	支出	損益
シンフォニー定期	72,723	101,770	▲ 29,047	63,622	94,290	▲ 30,668	75,383	64,751	10,632
いずみ定期	19,129	18,826	303	15,352	13,891	1,461	11,397	11,067	330
その他自主	41,946	51,714	▲ 9,768	49,001	43,009	5,992	80,056	67,045	13,011
自主公演計	133,799	172,310	▲ 38,512	127,975	151,190	▲ 23,215	166,836	142,863	23,973
依頼公演	190,534	83,921	106,613	177,315	100,843	76,472	177,403	64,991	112,412
豊中事業	27,338	21,810	5,528	37,687	37,257	430	36,177	24,488	11,689
演奏事業合計	351,671	278,041	73,629	342,977	289,290	53,687	380,416	232,342	148,074
共通・管理費用	58,262	434,717	▲ 376,455	135,569	390,146	▲ 254,577	31,400	314,474	▲ 283,074
総合計	409,933	712,758	▲ 302,826	478,546	679,436	▲ 200,890	411,816	546,816	▲ 135,000

II. 楽団運営

1. 事務局体制

演奏事業部、総務経理部の2部体制で運営。従前の企画制作部と営業推進グループを演奏事業部内の部署とし、情報伝達指示系統、照査経路を確立し業務の効率化を図った。

豊中市立文化芸術センター指定管理業務に携わる出向者2名については、楽団側とホール側とで定期的にミーティングを行い情報共有している。

2. 広報宣伝概要

公演プログラム、チラシ、webマガジンの制作費用を見直し、広告宣伝費の大幅削減が実現した。SNSの活用にあたり楽員にも協力を仰ぎ、ファンの拡大に向けオールセンチュリーで取り組んだ。また、豊中商工会議所と連携して会員企業向けの法人セット券を作り、豊中名曲シリーズの動員強化に努めた。

3. 法人営業強化

体制を強化し、既存会員のフォロー強化と新規スポンサーの開拓を実施。

法人サポーター会員 66社 → 63社に減少

オフィシャルスポンサー 12社 → 17社に拡大

※2019年3月に日本商業開発株式会社様より1,000万円の寄付があった

4. 人事情報

- ・ 楽員人事
 - 退職者 4 名 丸山 奏（首席ヴィオラ奏者）
水無瀬一成（首席ホルン奏者）
宮本謙二（ファゴット奏者 再雇用期間満了）
近藤孝司（トロンボーン奏者 再雇用期間満了）
 - 再雇用者 1 名 坂倉 健（コントラバス奏者）
 - 入団者 1 名 安井悠陽（首席ファゴット奏者） 2019 年 4 月より
- ・ 事務局人事
 - 退職者 3 名 山口明洋（演奏事業部長）
畔勝恵子（総務経理部）
海老原ゆかり（営業推進グループ）
 - 復職 1 名 杉原晶子（産休、育休）
 - 入職者 5 名 田中啓之（事業統括部長）
小野真里佳（演奏事業部 パートタイム）
樫山仁美（営業推進グループ パートタイム）
増田 香（総務経理部 パートタイム）
川口 彩（営業推進グループ パートタイム）

以上